

京浜地区職業能力開発協議会 創立30周年記念誌に

羽太重宗さんの卒業生寄稿 が掲載されました

ふじ瓦版

FUJI CARPET NEWS

発行日 17年1月21日

NO 020

発行:環境対応企画室
ふじ瓦版は当社の社内報です
閲覧後指定の場所にファイル

技術校に入校して インテリア・表具コース 第8期 羽太 重宗

私の父は内装技能士であり、子供の頃からその仕事振りを見せられて、「人に喜ばれ、感謝される人間になりたい」と父の背中を見て思っていました。そして、学生時代には、海外派遣のボランティアを経験し、人に喜ばれる仕事の充実感も味わいました。

社会に出て、自動販売機の管理会社や医療機器専門商社で約七年間、営業の仕事をしてきました。しかし、自分の一生の仕事は人に喜ばれる仕事をしたいと思う気持ちが強くなり、今が転機と決心をしました。父と同じ内装の仕事・職人になることが出来ないかと思いましたが、知識も経験も全くない私が、すぐに職人の親方について、丁稚奉公することにもためらいがありました。鶴見高等職業技術校で基礎知識、技術を学べることを知り、インテリア・表具コースに入校することに決めました。

しかし、前職とは全く畑違い、右も左も分かりません。けれども学校の授業は丁寧で、未経験の私でも、非常に分かり易く、皆についていくこともできました。学科の授業では基礎から応用まで理論を学び、実習ではタイルシート、クロスの貼り方や、襖・障子の張り替えなど幅広く学びました。9月からは内装と表具に専攻が別れ、それぞれが、より深い知識と技術を習得します。私は床施工を専攻し、カーペットや階段の施工法などを学びました。しかし、理屈が分かっているにもかかわらず、なかなか簡単にはできません。改めてプロの技術技能士の凄さを痛感しました。その他にも校外実習や技能展などのイベントもあり、楽しみながら真剣に学ぶことができた一年でした。

卒業後は株式会社フジ・カーペットに床職人の見習いとして、就職することができ、念願の内装仕上げ技能士(床)を目指して修行しています。実際の現場では、先輩職人さんが床材の特長やくせを見極めて施工をしたり、現場にあわせた割付の仕方、仕事の手順による段取り等、これが職人技術かと驚かされています。今は、これらのことを一つ、一つ教えてもらい、経験を積み上げているところです。幸いにも私は、若い、明るい先輩職人に囲まれて、学校の延長線上で厳しくとも充実した見習い生活を送っています。

まだ、私は最近結婚しました。これからは家庭を持ったことだし、学校で学んだ事を生かして一日も早く、一日も早く、一人前になり、人に喜んでもらえる技術技能士になりたいと思ひ頑張ります。



理事・森田社長の
寄稿文です

……夢を見ました。

本物のプロを育てるのは、技術校でもなければ、企業でもなく、実は最終消費者なんだなあ……と学びました。

相手から報われる期待ではなく、人に報いる喜び……が本物のプロ魂ではないかと……NHKのプロジェクトXの数々の放映から教えられました。

今時 流行らない言葉ですが、プロは、自分の仕事に「誇りを持ち、評価を求めても、対価を求めず」、受ける消費者はその仕事に「対価をもって感謝」を表わす。

こうした「認め合う社会」こそが、人を育て、品質精度を高め、やがて国策でもある技術技能立国への底上げにつながって行くのではないのかな……と。

……ここで目がさめました。

小社は1983年以来高等職業技術校からプロの卵を迎えてきました。

それぞれが、技術校で学んだ基礎の上に、本人の努力と経験の蓄積が加わり、一人前の技術技能者になり、またなりつつあります。

30周年を迎え、「技術人づくり」に留まらず「世間が人を育てる」という原点である、もう一つの灯かりに点火する活動が、次の10年に向かって加われば更に素晴らしいと思います。